



たからmikke通信



No. 13

発行 授業研究部

「プライム128」について・その1

道徳研究如何にかかわらず、宝立町のことに関わっていく私たち宝立小の教職員・子どもたちにとって、地域おこしグループ「プライム 128 (イチニッパ)」のことを知るのは大切なことだと思います。

彼らのグループがいつ頃、どのようにして生まれたのか。何を求めて活動してきたのか。これまでの活動内容とその成果とそして今後の課題とは何か。次の地域を担う子どもたちがこの宝立のために何ができるのか…。そんなことを学習できる生きた教材としての「プライム 128」について、紹介します。

なお、「プライム 128」の情報については、宝立公民館に資料集や写真集が保存されていますので、それを活用してください。ここに引用した新聞記事も、その中から見つけたものです。



人ふろっぴー「奨励賞励みに頑張る」

「子供のころ、遠足でよく訪れた珠洲の名所・曾の坊の滝。当時はあった滝に通じる道がなくなってしまい、これではいけないと、4年前に有志で町づくりグループ『プライム 128 (いちにっば)』を作り、約 800 メートルの遊歩道を開設しました。『128』は滝の高さとゴロの良さから付けたもので、現在会員は 40 人。月 1 回、酒をくみかわしながら町づくりを話し合ったり、春秋にマツタケ祭りを開催しています。今回受けた『いしかわアメニティ奨励賞』を良い励みにし、さらに頑張りたい」＝「プライム 128」代表の田崎正彦さん (47)

(珠洲市宝立町鶴島)

1992 (平成 4) 年 3 月 31 日 (読売新聞記事より)



曾の坊の滝
記念テレカ

子供のころ、遠足でよく訪れた珠洲の名所・曾の坊の滝。当時はあった滝に通じる道がなくなってしまい、これではいけないと、4年前に有志で町づくりグループ『プライム 128 (いちにっば)』を作り、約 800 メートルの遊歩道を開設しました。

がんばっています 珠洲市・プライム128

－陽気にさわやかにアイデア構築－

見付島で知られる珠洲市宝立町の、地域おこしグループである。20代から40代の男性21人が集い、宝立地区を中心にした町のビジョンづくりに知恵を絞っている。

会名の「128（イチニッパ）」は同町・般若川上流の「曾（そ）の坊の滝」のひとつが、12.8メートルの落差であることにちなむ。さらに、発表の日が、たまたま（昭和63年）12月8日ということもある。これに「主要な」といった意味のある「プライム」を冠してみた。だから、同会にとって曾の坊の滝は、いささかの意味を持つ。

会長で旅館業の田崎正彦さん（47）＝同町鶉飼＝は、20年ぶりにUターンしたある日、子供と一緒に滝に足を運んだ。滝は少年時代の思い出の場所である。だが、土砂くずれなどで道がなくなっていたという。四季を通して景観がすばらしく、住民のやすらぎの場所になっていた滝への道の復元を、仲間に働き掛けた。こうして一昨年春、遊歩道が完成した。

町の自営業者、医師、公務員、会社員など、会員の職業だけでなく、区長や青年会議所のメンバーもいて、実に多彩な顔ぶれ。毎月28日に例会を持っていて、なぜか下戸は皆無とか。「酒を目当てにしての会員がほとんどではないか」との冗談も出るが、話が弾めば、新谷まで議論の続くこともある。

会にとっての最近のビックニュースは、ことし7月に発表のあった建設省のCCZ（海辺のふれあいゾーン）整備計画。同市の宝立・正院海岸の鶉島地区を対象に、7カ年で観光レクリエーション空間として施設整備を進めようというものだ。「（CCZは）わたしたちの会がまとめあげ、市に働き掛けた構想の一部が土台になった」と田崎さんらが話すように、会の活動は行政も一目置くようになっているという。

抜群のまとまりと笑顔が絶えないグループ。同市で数少ない大正期の建築の保存問題、祭り会館づくりの検討のほか「秘密」の事項も。「今あるものをどう生かしていくか」から発想するのが、常に活動の基本にあるようだ。

平成3年10月28日（???新聞）

★

今、4年生でまとめている「プライム128」についても、全職員に紹介して、共有財産としていきたいので、Sa先生、よろしく願います。子ども達のまとめたものとか、GTとしてプライムの人を迎えてのお話なども、是非、録画をしておいてください。

また、以上の資料を用いて、道徳用の資料を作ってくださいる人がいてくださればと思います。できれば、1月の地域公開授業で取り上げられないでしょうかねえ。